

障害のある人と共に生きる

中 二

皆さんは、「障害のある人」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか。良いイメージをもっていますか。それとも良くないイメージをもっていますか。

私に通っていた小学校の敷地内には、障害のある人や、日常の生活に何かしらの支障がある人などが通う学童施設がありました。私よりも小さい子供から、高校生くらいの人まで通っていました。一、二人の子供に対して必ず指導員の方が付き添っていて、障害のある人について何も理解していなかった私は、この子供たちは一人では生活できないのだと思い、心の中で差別していました。しかし、その一方で同情している自分もいて、障害のある人を見かけると「かわいそう」「大変だな」といった言葉しか思い浮かびませんでした。そのようなことを考えながら、子供たちが遊ぶ姿を眺めていました。しばらく見ていると、一つの疑問が浮かんできました。それは、全員が笑顔で楽し

そうにしていたことです。車いすを使っている子、一人では歩けない子も上手に話し、性別、年齢関係なく遊んでいる様子は、私たちと全く変わりませんでした。今まで一方的な見方をしていて、差別や同情をしていた私は、やっと自分の勘違いに気がきました。

なぜ私は障害のある人に対してこのような差別意識をもってしまったのか。なぜ差別は生まれ、そして無くならないのか。この二つの問題には共通する原因があると思います。それは「思い込み」です。普通に生活していれば、たくさんの情報が次々に入ってきました。その中で、無意識のうちに自分にとって都合の良い情報や正しくない情報を信じてしまうのだと思います。噂の波に流されずにしっかりと正しい情報に基づいた自分の意見をもたなければいけないと感じました。

私たちの思い込みが原因の事件は数え切れないくらい起こっています。その中の一つに、私自身悲しい気持ちになりました。とても驚いた事件がありました。それは電車内で、顔に障害がある女性の写真を、一人の女子高生がSNSに投稿したという内容のものです。この女子高生は「顔に障害があ

ることが面白い」「何をしても良い」と軽い気持ちで投稿したのだと思います。しかし、障害があるだけで、自分の顔がインターネット上に流れたと知った被害者の気持ちはどうでしょうか。結局、女子高生は書類送検され、被害者と加害者、このニュースを見た人、誰も幸せにならない事件でした。私はこのような事件が起こる度に考えます。誰が、何のためにこんなことをするのかと。きっと、弱虫な人が自分を強く見せるために、自分を守るためにやるのだと思えました。いじめだって同じです。自分がいじめられないように、他の人をいじめます。絶対にこんなことをしてはいけません。しかし私たちが少しずつ加害者側に揺れ動いていることは事実です。そのせいで、障害のある人を差別する社会になりつつあるのではないのでしょうか。

「差別社会」はすぐには変えられません。でも、それぞれができることをすれば、いつかは変われるはずです。まず最初に、自分が差別をしないことです。周りを変えるには、自分から行動しなければ変わりません。だから私は差別をなくし、世界を平和にするためにやってみたいことがあります。

す。それは「青年海外協力隊」という仕事に就くことです。世界の様々な国に住む人と同じ暮らしをし、触れ合うことで何か新しいことが見えてくると信じています。そこから私は、人と人をつなぎ、世界中の困っている人を助けたいです。その夢を叶えるためには、周囲の人のことを思いやる気持ちや、どのように接するべきかなど考えなければいけないことがたくさんあります。でも、まずは身近なところに目を向けて生活し、差別を世界からなくす、という大きな目標に向かって歩んでいきたいです。いつか、どんな障害のある人も笑顔で暮らせる世の中になりたいです。